

## 学長直轄、責任態勢を明確化

# 部活動の新統括組織

## 日大アメフト問題で改革

狙いがある。

競技の枠を超えて情報交換を図る「監督コーチ会」や、学生による「選手会」を発足させ、指導力や競技力の向上を目指す。部の運営に学生の意見を反映させる仕組みも整える。指導者の選考基準も明確化する。改革の状況を観察する組織として、外部有識者らによる「競技スポーツ部監理委員会」も設ける。

力を握っていたことも問題の背景にあったことから、大学運営に携わる理事らが監督やコーチなどを兼務しないことも盛り込まれた。

日大アメフト部は5月の関西学院大との定期戦で、危険なタックルで相手選手を負傷させた。関東学生連盟は反則を指示したとして内田氏らを永久追放に相当する除名とし、日大には2018年度シーズン終了までの出場資格停止処分を科した。

アメフト部の内田正人前監督が大学の常務理事や人事部長など強い権

力を握っていたことも問題の背景にあったことから、大学運営に携わる理事らが監督やコーチなどを兼務しないことも盛り込まれた。

## 日本大が発表した「競技部改革」のポイント

- 基本理念「日本大学競技スポーツ宣言」を制定
- 大学の付属機関だった統括組織「保健体育審議会」などを廃止。学長が直接統括できる大学本部の教育研究事務部門として「競技スポーツ部」を設置、各部を所管
- 部長、副部長、監督、コーチらの選考方法を整備
- 大学の要職者による部長、副部長、監督、コーチの兼務禁止
- 競技の枠を超えて情報交換を図る監督コーチ会と、選手会の設置
- 学生、指導者が対象の相談窓口を設置
- 外部有識者らが改革の状況を観察する「競技スポーツ部監理委員会」を設置